【論文】

中国人学習者のテンス・アスペクトの誤用
—— 連体修飾節を中心に ——

菅谷　有子

Errors of Tense and Aspect Made by Chinese Students : A Focus on Noun Head Modification

Yuko Sugaya

中国人学習者の連体修飾節のテンス・アスペクトの誤用分析から、誤用の要因に動詞の類型の把握が関与していることを示し、習得促進には日中両言語の動詞の類型の差異に注意を払うことを提案した。

分析対象は96・97年度の文教大学留学生別科の中国・台湾の学生の作文で、誤用を次の５つの型に分類した。

【Ⅰ型】タ形をル形とした誤用；【Ⅱ型】ル形をタ形とした誤用；【Ⅲ型】テイル形をル形とした誤用；【Ⅳ型】ル形をテイル形とした誤用；【Ⅴ型】その他。

①Ⅰ型では、文末の誤用は状態的述語の過去テンスであったが、連体修飾節では動作動詞に誤用が現れた。②Ⅲ型では、文末の誤用は結果状態のテイル形に問題があったが、連体修飾節では動作動詞のテイル形に問題があった。③タ形の形容詞的用法は、Ⅰ型やⅤ型の品詞や自・他動詞の混同としても現れた。④Ⅴ型では、漢語動詞の名詞部分のみを使用し、アスペクトの選択を回避するものがあった。

テンス・アスペクトの指導に際しては、学習者に動詞の意味的特徴を意識させること、また日中両語で意味的に類似する語でも類型としては異同があることに注意を向けさせるべきと考える。

キーワード：テンス、アスペクト、連体修飾節、動詞の類型、意味的特徴

0．はじめに

中国語を母語とする日本語学習者による、テンスとアスペクトに関する誤用を観察し、習得する際の問題点及びその要因を検討する。その際、ル

形、タ形、テイル形の選択の誤りについて、文末における誤用との対比を通して、連体修飾節の誤用の特徴を考察する。また、形態の選択の誤りの要因を、日本語と中国語の構文や述語の意味的特徴に求め、学習者の習得を促進する方途を探る。

先行研究としては黒野敦子（1995）[1]、許夏珮（1997）[2]等がある。両先行研究とも、学習者に文法性判断テストやオーラルテストを用いて調査したもので、「結果の状態」の用法は「動作の継続」の用法より習得が困難であることが指摘されている。しかし、いずれも文末の述語のアスペクトについての習得に限定したもので、連体修飾節の述語のアスペクトは研究の対象としていない。

そこで、本稿では、連体修飾節（トキ節を含む）の誤用を研究対象とし、考察していくことにする。

1．研究方法

1－1　対　　象

研究対象は文教大学留学生別科の中国語母語話者の留学生の作文中の誤用を用いた。96年度のＡクラス７名、97年度Ｂクラス７名、計14名の作文でＡクラスは400～800字を目安に一年間に各人約８編、Ｂクラスは400字～600字を目安に４月～７月に各人約９編の提出された作文の中からテンス・アスペクトに関する誤用を採録し、検討を加えた。Ａ・Ｂ両クラスとも日本語の学習時間は300時間以上ということになっているが、実際はＡクラスは四月の段階で半年以上の学習歴があり、初級教材は修了し中級の半ば程度、Ｂクラスは初級の半ば程度というのが実情である。

1－2　方　　法

まず、学習者の連体修飾節（トキ節を含む）の使用頻度を日本人の一般的な使用頻度と比較し、次に誤用の出現率を調べた。

その上で、作文中の連体修飾節の誤用を動詞、形容詞など述語の形態について、次の５つのタイプに分類して採録し、検討を加えた。

Ⅰ型：タ形とするべきところをル形とした誤用。

Ⅱ型：ル形とするべきところをタ形とした誤用。

Ⅲ型：テイル形（テイタ形も含む）とするべきところをル形（タ形も含む）とした誤用。

Ⅳ型：ル形（タ形も含む）とするべきところをテイル形（テイタ形も含む）とした誤用。

Ⅴ型：その他の誤用。この中には、活用の形態が未習熟であるために引き起こされる誤用や類型の違い、例えば動詞であるべきものを形容動詞と考えてしまうような品詞の取り違えによる誤用、また自動詞と他動詞の混同から引き起こされるアスペクトの違い等を含む。また、漢語動詞などを動詞として使わずに、語幹の名詞部分で代用させてしまうものも含む。

2．日本語と中国語の連体修飾節の特徴

誤用例を検討する前に、一応日本語と中国語のテンス・アスペクトの表し方の特徴を確認しておく。

2－1　日本語の連体修飾節とテンス・アスペクト

日本語の連体修飾節は基本的には、主節が過去・現在・未来のいずれのテンスであっても、例文(1)～(10)のように修飾節の述語の種類と形態によってその表す「時」が異なる[3]。

(1)　自動車にくわしい友人にエンジンの調整をしてもらった。

(2)　同じクラスにいた加藤さんとは今でもつきあっています。

(3)　翌日、出発する船の予約がとれました。

(4)　はやくおわった人は帰ってもよろしい。

(5)　毎朝散歩する道で、偶然友達に出会いました。

(6)　肉を食べる動物はするどい牙を持っています。

(7)　彼の小説は史実に｛もとずく／もとづいた｝ものが多い。

(8)　彼は大学で優れた成績をおさめました。

(9)　晴れた日にはここから富士山が見えます。

(10)　壁に「禁煙」と書いた紙がはってあった。

(1)は状態的述語がル形の場合で＜主節と同時＞だが、(2)は状態的述語がタ形の場合で＜主節より以前＞を表す。(3)は動的述語がル形の場合で＜主節の時点で未実現＞、(4)は動的述語がタ形の場合で＜主節の時点で実現＞している動作を表す。また、(5)の＜習慣反復＞的な動作や、(6)の＜属性＞などはル形で表す。(7)の＜関係概念＞を表す動詞はル形またはタ形となる。(8)の＜形容詞的＞動詞が名詞を修飾する場合、また(9)(10)の＜結果状態＞が＜形容詞的＞意味を持つものもタ形となっている。以上まとめると、下の＜表１＞のようになる。

＜表１＞日本語の連体修飾節のテンス・アスクペクトの表し方

修飾節の表す時・意味	修　飾　節	補　足
主節と同時 主節より前	状態的述語のル形 状態的述語のタ形	主節がタ形の場合で、過去を表す語がある時は同時も可
主節の時点で未実現(未完了) 主節の時点で実現(完了) 習慣・反復	動的述語のル形 動的述語のタ形 動的述語のル形	修飾節に過去を表す語がある場合はタ形も可
属性・役割・用途 関係概念 形容詞的	動的述語のル形 動的述語のル形・タ形 {形容詞的動詞のタ形 {結果相のタ形	
被修飾名詞の意味特性	ル形［仕事・習慣・約束］ ル形・テイル形［姿・音］ タ形［経験・記憶］	

２－２　中国語の連体修飾節のテンス・アスペクト

２－２－１　連体修飾節の位置

まず、中国語の連体修飾節の位置関係は、日本語と同様、原則的には連体修飾成分が被修飾語の前に来る。(11)のように修飾成分が名詞、形容詞、動詞のいずれの場合でも順序は変わらない。

(11)　［N／A／V］的N：

我的书［私の本］；新的书［新しい本］；买的书［買った本］

2－2－2　連体修飾節のテンス・アスペクト

中国語のテンス・アスペクトの表し方は、主節の述語と連体修飾節の述語とでは異なる。また、日本語では連体修飾節の「時」が、述語の形態によって明示されるのに対して、中国語の連体修飾節の「時」は述語の形態的な違いが明示されなくても、文脈によって判断することができる。

まず、主節の述語のテンス及びアスペクト二ついて、木村（1982）によってまとめると次のようになる。

テンスについては、日本語がル形•タ形という文法的な形式によってテンスの対立を表現するのに対し、中国語は文法形式としてのテンスを持たず、「時」は時間詞や副詞、文脈によって位置づけられるという。

(12)　他去年在这里工作［彼は去年ここで働いた］

(13)　他明年在这里工作［彼は来年ここで働く］

一方、アスペクトについては、動作・作用の様態を「着」「了」などの文法形式によって表すことができる。中国語におけるアスペクトの捉え方の根底には＜已然＞と＜未然＞という対立する認識がある[4]。そして、主節の述語が動作動詞で時間の指示に関する表現形式が文中に存在しない場合、その述語は＜未然＞の動作・作用を表し、＜已然＞の動作は副詞がついたり、「了」によって後接される。

(14)　他吃。［彼は食べる］　＜未然＞

(15)　他已经吃了。［彼は食べた］＜完了＞　＞＜已然＞

(16)　他在吃。［彼は食べている］＜進行中＞

ところが、連体修飾節では主節の述語とは反対に、無標（unmarked）[5]の動作述語は＜已然＞を示す傾向が強い。

(17)　吃的人［食べた人／＊食べる人］

(18)　他穿的衣服［彼が着た服／彼が着ている服］

(19)　他要穿的衣服［彼が着る服］

しかし、楊凱栄（1997）によれば、連体修飾節の述語が無標の場合、＜未然＞と＜已然＞の両方の読みが可能な場合も多く、その場合は文脈か

ら解釈が選択されるという。

⑳　喝酒的时候，我没在。［お酒を飲んだとき、私はいなかった。］

㉑　喝酒的时候，叫我。［お酒を飲むとき、私を呼んでくれ。］(6)

したがって、連体修飾節の述語が、ル形・タ形・テイル形・テイタ形のいずれかの形態を義務的に選択しなければならない日本語は、連体修飾節の述語が表す「時」が文脈に依存する中国語母語話者の学習者にとって、当然困難が予想される。そこで、学習者の誤用が中国語のテンス・アスペクト体系と関係があるのか、関係があるとすれば、どこに焦点を当て指導して行くべきか等、その方向を本稿では探っていくことにする。

3．誤用の分布

3－1　誤用の出現率

最初に、A・B両クラスの連体修飾節（トキ節を含む）の誤用の出現率を比較する(7)。比較に当たって、まず日本人の連体修飾節の使用頻度と両クラスの使用頻度を比較し、次に全体の使用数と誤用の割合を比較する。

＜表２＞は、日本人については『朝日新聞』の「声」（投書欄）(8)から、A・B両クラスは本研究対象に用いた留学生の作文（Aクラス54編、Bクラス61編）から、使用されている文の総数、連体修飾節の総数、トキ節の総数、そして連体修飾節とトキ節の合計数を数え上げたものである。

＜表２＞連体修飾節の出現率

作文／グループ	件数	文数	連体修飾節数	トキ節の数	合計
日本人(9)	40	436	258（59%）	14（3%）	272（62%）
Aクラス	54	707	298（42%）	33（5%）	331（47%）
Bクラス	61	801	79（10%）	16（2%）	95（12%）

＜注＞（　）内のパーセンテージは、文数を100としたときの連体修飾の出現率である。

連体修飾節の使用頻度は、日本人がいちばんが高く（59%）、次いでAクラス（42%）、Bクラスとなっている（10%）。A・B両クラス間の差は、学習時間や習熟度の差が連体修飾節の使用頻度の差にも反映されたものと考えられる。

しかし、トキ節については、通常、連体修飾節より早い段階で学習するためか、Bクラスも2%使用しており、日本人の3%とあまり差はなく、Aクラスに至っては5%と日本人より使用頻度が高い。

では、次に各クラスの誤用の出現率を比較してみる。

＜表3＞誤用の出現率

誤用／クラス	誤用例数（使用数に占める誤用の割合：%）		
	連体修飾節	トキ節	合計
Aクラス	30例（10%）	6例（18%）	36例（11%）
Bクラス	18例（23%）	6例（38%）	24例（25%）

＜表3＞ではAクラスの誤用は36例、Bクラスは24例となっており、誤用例数ではAクラスの方が多い。しかし連体修飾節とトキ節を合わせた誤用の出現率は、Aクラスが11%、Bクラスが25%と、Bクラスの方が相対的に高くなっている。

連体修飾節の誤用例数については、Aクラスは30例で、使用された連体修飾節に占める誤用の出現率は10%、それに対しBクラスは18例だが23%と、誤用の出現率はBクラスが相対的に高くなっている。

トキ節については、誤用の出現数がA・B両クラスとも6例と同数だが、誤用の出現率はAクラスが18%、Bクラスが38%で非常に高い。また両クラスとも一般の連体修飾節より、トキ節の方が誤用の出現率が高くなっている。しかし、誤用が出現したのは「～時（に）」だけで、それ以外の表現にはなかった。これは、「～前（に）」ではル形、「～後（に／で）」ではタ形と、連体修飾成分の動詞の形態が一定であるのに対して、「～時（に）」では文末の述語との時間的な関係で連体修飾節の述語の形態が変化

することから、形態の選択がより複雑になるためだと考えられる。（＜表1＞参照）

3－2　誤用の分布

ＡクラスとＢクラス全体の連体修飾節（トキ節を含む）の誤用の合計は60例だが、＜表4＞では先の研究方法（1－2）で示した5つのタイプについて、Ａ・Ｂ両クラスの連体修飾節の誤用の分布を示す。

＜表4＞Ａ・Ｂクラスの連体修飾節の誤用の分布[9]

誤用の型／内訳	Ⅰ タ形→ル形		Ⅱ ル形→タ形		Ⅲ テイル形→ル形		Ⅳ ル形→テイル形		Ⅴ その他		合計	
全体	13		5		10		3		29		60	
クラス別	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B
	10	3	2	3	6	4	1	2	17	12	36	24
誤用の内訳												
トキ節	3	1		1	2	2			1	2 (2)	6	6 (2)
形容詞的用法	3	1							4 (4)		7 (4)	1
類型の違い									8 (2)		8 (2)	
回避									6 (2)	2 (1)	6 (2)	2 (1)
その他	4	1	2	2	4	2	1	2	2	10(1)	13	17(1)

＜表4＞では、全体としてⅤ型「その他」が29例と最も多く、ついで多い順にⅠ型「タ形であるべきをル形にした誤用」が13例、Ⅲ型「テイル形であるべきをル形にした誤用」が10例、Ⅱ型「ル形であるべきをタ形にした誤用」が5例、Ⅳ型「ル形であるべきをテイル形にした誤用」が3例となる。

Ａクラスは、述語の形態の選択にかかわる誤用の分布を見ると、Ⅰ型（10例）とⅢ型（6例）が多く、これは連体修飾節の述語を適切にタ形やテイル形にできないことを示している。

また、誤用例数ではいちばん多いⅤ型のＡクラスの内訳は、動詞と形容動詞、あるいは自動詞と他動詞というような品詞や類型の判定がゆれるものが8例ある。次に、漢語動詞として用いるべきを、語幹の名詞部分だけ

で代用するというような、アスペクトの形態選択を回避するような誤用が6例ある。形容詞的用法の4例は、「類型の違い」や「回避」によって引き起こされた誤用で、適切なタ形が作れないものである。

一方、Bクラスの誤用の分布は、V型以外はⅠ型からⅣ型にわたって顕著な差異が見られない。Bクラスは連体修飾節をあまり使用せず(<表2>)、たとえ使用した場合も誤用はいろいろなタイプに分散している。また、BクラスでV型の誤用の内訳は「その他」の項目に集中している。これは、アスペクトに関係するものではなく、用言の修飾成分と被修飾語の間に「の」を挿入したり(「料理を作るの材料」)、活用形自体が定着していないものなどで、基本の習得にまだ問題があると考えられる。

AクラスとBクラスの誤用の分布に異なった傾向が見られるが、テンス・アスペクトの観点に立った場合、Bクラスの誤用の分布から母語との関係を探ることは困難で、むしろ誤用の分布に顕著な偏りのあるAクラスの結果から誤用の背景を探っていくのがよいと考える。

そこで、次章ではAクラスを中心にⅠ型、Ⅲ型、V型の誤用例に焦点を当てて検討していくことにする。

4. 誤用の検討

4－1　ル形とタ形の間の誤用(Ⅰ型)

<誤用例>[10]

(22) いつも援助をあげる母が「もう自分で問題を解決しなさい」と言った。【→助けてくれた】

(23) 日本へ来て、もうすぐ一年になります。いろいろとても勉強になりましたが、私にびっくりさせることもたくさんありました。【→びっくりした】

(24) 私が日本へ来る目的は、日本の大学で経済とコンピューターを勉強したいということだ。【→来た】

(25) 困難に直面するとき、あるいは悩みに陥るとき、いつも温かい手を

さし伸べてくれるのは家族である。【→直面した；陥った】

誤用例㉒～㉕の連体修飾節の動作は、いずれも主節の動作の時点で既に実現していなければならないので、タ形にする必要がある。ただし、㉒は授受動詞の使い方と「助ける／援助」の語彙の選択に問題があること、㉓は自動詞を使役形にした場合の助詞の選択など、アスペクト以外の問題があるが、ここでは立ち入らない。

さて、㉒～㉕の連体修飾節で使われている動詞の種類を見ると、全て動作動詞で、状態的述語ではない[11]。ところが、主節（文末）の述語に現れる誤用例では、連体修飾節とは反対に状態的述語（テイル形も含む）に誤用が見られ、動作動詞の誤用は見られなかった。＜表５＞を参照されたい。

＜表５＞Ａクラスの文末と連体修飾節の誤用の分布[12]

誤用の型／位置	Ⅰ タ形→ル形	Ⅱ ル形→タ形	Ⅲ テイル形→ル形	Ⅳ ル形→テイル形	合計
文末	8 テイル形　4 状態的述語　4	14 動作動詞　7 状態的述語　7	11 結果状態　5 動作継続　3 「思う」　3	4 動作動詞　1 「思う」　3	37
連体修飾節	10 動作動詞　10	2 動作動詞　2	6 動作継続　5 結果状態　1	1 動作動詞　1	19

では、なぜ＜表５＞に現れたように、Ⅰ型の誤用では、文末と連体修飾節で使われている述語の分布に違いがあるのだろうか。

木村（1982）では、中国語のテンスは主節の動詞の形態変化によってではなく時を表す副詞や文脈によって示し、アスペクトは、動作動詞が主節の述語の場合＜未然＞は無標で、＜已然＞は副詞や主節の動詞に「了」を後接して表すとした。

これに対して、荒川（1982）は、状態動詞や恒常的な動作を述べる動詞の場合は、動詞の形はそのまま（無標）で副詞によって時を示すが、動

作動詞の場合、一般的に既実現（＝完了した動作）には動詞に「了」が後接されて過去の動作として明示される、と説明している[13]。

(26) *刚才*你有多少钱？［さっき君はいくらもってた］

(27) *以前*他知道。［いぜん彼は知っていた］

(29) 他昨天来了。［彼は昨日来た］

(30) 你干什么了？［なにをしていたの］

例文(29)(30)の動作動詞においては、中国語の「了」と日本語のタ形が非常によく似た機能を持っていると言える。ここから文末の動作動詞の過去を表すタ形は、習得上あまり問題にはならず、むしろ(26)(27)のような文末の状態的述語をタ形にすることの方が習得上問題となると考えられる。

一方、中国語の連体修飾節の動作動詞は無標でも、＜已然＞の解釈（既実現または同時）がなされる[14]。

(31) 他已经吃了你买来的药。［彼女はもう君が買ってきた薬を飲んだ］[15]

(32) 这是卖旧报纸的钱，给你。［これは古新聞を売ったお金だ］[16]

そのため、日本語で連体修飾節の文を作った場合、(22)～(25)の誤用例のように、主節の時以前に実現した動作をタ形ではなく基本形のル形（無標）にしてしまうのではないかと考えられる。

すなわち、Ⅰ型（タ形とするべきをル形とした誤用）は、文末では状態的述語において、連体修飾節では動作動詞においてと、誤用の分布は異なるものの、いずれも学習者の母語である中国語のテンス及びアスペクトの表し方（形態的特徴）に起因する可能性がある。

4－2　テイル形とル形（Ⅲ型）

＜誤用例＞

(33) しかし、実は文教大学で勉強した私が将来どのようになるのか全く未知数だ。【→勉強している】

(34) 砂場で遊んだとき、きれいな愛ちゃんが風船を持ってきた。【→遊んでいた／遊んでいる】

誤用例(33)の「勉強する」、(34)の「遊ぶ」は、いずれもテイル形で＜進行中＞を表す継続動詞で、連体修飾節の動詞が主節と同時を表す場合はテイル形にする必要がある。

木村（1982）は中国語の連体修飾節の動作動詞はは無標のままで＜已然＞を指す傾向が強いと指摘し、＜已然＞には基準時にける既実現と実現中の動作、即ち進行相も＜已然＞に属するとしている。従って、連体修飾節内の無標の動詞は日本語のタ形でもテイル形でもどちらの解釈でも可能であるとし、以下の例をあげている。

(18)　他穿的衣服［彼が着た服／彼が着ている服］

(35)　看书的人［本を読んだ人／本を読んでいる人］

一方、楊（1997）は連体修飾節では無標の動詞は文脈や構文によって「時」の解釈が選択されるという[17]。＜已然＞と＜未然＞の両義的解釈が可能な場合は、両義性を排除するために形態的に明示され得る。しかし、いずれにしても、連体修飾節内の動作動詞の「時」の解釈は、無標の動詞が文脈や構文によって一義的に解釈され得るため[18]、形態的選択を常に義務的にしなければならない日本語とは大きな違いがある。

なお、上記の誤用例を含めⅢ型の誤用例10例中４例で連体修飾節でタ形が選択されているが、これは中国語では進行相が＜已然＞と解釈され、その解釈が日本語のタ形に投影された可能性も考えられる。

さて、前出の＜表５＞に示したように、Ⅲ型においても、文末と連体修飾節では誤用を引き起こす述語の分布に違いがあった。

文末では、一般的な継続動詞の＜進行中＞の誤用はなく、テイル形で＜結果状態＞になる瞬間動詞や、テイル形で＜反復・習慣・恒常的な動作＞を表す動詞に誤用が多く見られた。これは、連体修飾節では主節と＜同時＞の解釈が成り立つ動作動詞のテイル形が出来ないのとは対照的である。

では、なぜⅢ型においても、文末と連体修飾節とでは誤用例の述語のタイプが異なるのか。

まず、文末に進行相の誤用例が少ないのは、中国語の進行相は動作動詞

に進行または持続を表すアスペクト形式「着」が後接するため、「着」とテイル形の対応関係から、進行相のテイル形が作りやすいと考えられる[19]。

(36) 人们跳着、唱着［人々は踊ったり歌ったりしている］[20]

(37) さあ、遅れるわ。校長先生が待ってらっしゃるんだから。」[21]

［快迟到了、校长先生还等着我们呢！］

例文(36)(37)の日本語「踊る」「歌う」「待つ」は継続動詞で、これらに意味的に対応する中国語の動詞は「跳」「唱」「等」である。これらの動詞を意味的特徴から見ると、日中両語とも動作の過程性[22]を持った動作動詞である。従って、日中両語の動詞の語彙的アスペクトに共通性があることになる。即ち文末の進行相では、日中両語のアスペクト形式の対応関係と動詞の意味的特徴（＝類型）の共通性が進行相の誤用を出現させにくくしていると考えられる。

では、次に文末の誤用の特徴を考察してみよう。

＜誤用例＞

(38) （今年の三月ごろに日本に来たばかりなので）日本の生活にまだ慣れません。【→慣れていません】

(39) 駐車場へ行ったら、車はもうなくなった。【→なくなっていた】

(40) 私は今年の二月に日本へ来たばかりです。日本に来る前は中国の上海で生活しました。【→生活していました】

誤用例(38)(39)とも日本語は瞬間動詞で、現在の状態はテイル形で＜結果状態＞として表される。しかし、(38)「慣れる」に相当する中国語「习惯」は状態動詞[23]と考えられ、通常、無標で現在の状態を表し、先の進行相で見られたような述語の類型とアスペクト形式の対応関係は見られない。[24]

(41) 渔民习惯海上生活。［漁民は海上の生活に慣れている］[25]

(42) 日本の生活に馴れていないから、いろいろ教えてあげてください。

［他对日本的生活还不习惯，大家要教给他。］[26]

また、(39)の「なくなる」に相当する中国語は「没」だが[27]、この動詞は持続のアスペクト形式「着」はつかず、完了のアスペクト形式「了」し

かつかない。このタイプの動詞は日本語の瞬間動詞と類型的には重なるものが多く、「了」が後続された場合、日本語では文脈によりタ形、テイル形のいずれもが対応することになる。

(43)　泰明ちゃんが死んだよ。今日、みんなでお葬式に行こう。
　　[泰明死了。今天我们都去参加葬礼。][28]

(44)　でも、死んでいても、いつものように、やさしく、利口そうに見えた。[虽然死了，但看起来，象活着时一样和气，聪明。][29]

しかし、(39)ではタ形を選択している。これは前節で述べたように動作動詞に後接した「了」と日本語のタ形が非常によく似た機能を持っていることから、単純に「了」と機能的に類似するタ形を用いたための誤用と考えられる。

誤用例(38)(39)のいずれも日本語と中国語の動詞の意味的類型の違いの把握が明確でないことや、動詞の類型とアスペクト形式の組み合せによっては引き出されるアスペクトが異なり、文脈によって使い分けられるということへの理解を欠いたために起きた誤用である[30]。

(40)の「生活する」は時間的な幅のある恒常的な動作で、日本語ではテイル形を用いる。これに類する動詞は「働く・勤める・住む」等で、日本語では通常テイル形を用いるが、これらの動詞と意味的に対応する中国語の動詞「工作・住」は、通常、無標で用いられる。

(45)　他在这儿工作。[彼はここで働いている]

(46)　我们在上海住。[私達は上海に住んでいます][31]

このタイプの動詞は連体修飾節でも、日本語はテイル形、中国語は無標となるため、文末と連体修飾節の誤用に共通性が見られる。

(47)　桂芳さんは私が日本に来る前に働く画廊の同僚、彩芸さんの同級生でした。【→働いていた】

(48)　水力発電所建設関係の職場に勤めた親は、数年ごとに引っ越しして全国を回ることになっていて、子供を連れていくのがなかなかむずかしかったのです。【→勤めていた】

従って、このタイプの動詞は、指導に際して、日本語ではテイル形を用いることを強調する必要がある。

以上、テイル形をル形にしたⅢ型の誤用は、連体修飾節では述語の「時」を形態的に明示する日本語に対し、形態的に明示せずとも（無標）、文脈から判断される中国語のアスペクト表現が関与していることを指摘した。一方、文末においては動詞の意味的特徴（＝意味的類型）の違いと、動詞とアスペクト形式の組み合わせによって引き出されるアスペクトの異同が学習者に明確に意識されていないことが、誤用の背景にあることを示した。

4－3　形容詞的用法と類型の違い（Ⅰ型・Ⅴ型）

＜誤用例＞

(49)　もし困る問題があったら、皆さんはどんな気持ちになりますか。
【→困った】

(50)　幸福も体験したり、不幸も体験したりすることが充実な人生だと思う。【→充実した】

(51)　時と場合によって決めているあいさつが、日本語にはある。
【→決まった】

誤用例(49)～(51)は、日本語ではいずれもタ形で、形容詞的用法と見なされるものである。

(49)だけはⅠ型の誤用例だが、文末ではテイル形「困っている」で＜結果状態＞を表すが、連体修飾節ではタ形「困った」とするべきところを、ル形「困る」とした誤用。(50)も動詞の形容詞的用法で、「充実した」とすべきところを形容動詞と考えてしまい「充実な」としたものである。これは、日本語と中国語の品詞の捉え方を違えたことに起因する誤用である。(51)も自動詞「決まる」をタ形「決まった」とするべき形容詞的用法だが、自動詞と他動詞の使い分けも混同した二重の誤用である。

「優れる」「ありふれる」など、文末の述語として用いる場合は常にテイル形となる形容詞的動詞は、連体修飾をする場合は「優れた人」「あり

ふれたデザイン」などのようにタ形となり、意味的には形容詞と変わらない。また、結果状態相を持つ動詞も、連体修飾ではタ形で形容詞的に用いられる場合がある。そこで、(49)「困った問題」や(50)「充実した人生」など慣用的に用いられるものは、学習者に決まった言い方として提示した方がいいかもしれない。一方、(51)「決まる」「決める」のような自他の対応がある動詞は自動詞が形容詞的用法となる傾向がある[32]。しかし、日本語で自他の対応がある動詞と意味的に近い中国語動詞では、同一の動詞が自他を兼ねるものが多いため、学習者にとって自動詞と他動詞のアスペクト的な意味の明確な区別が困難となる[33]。そこで、自他が対応する動詞では、形態の違いと同時に意味的特徴の違い、特に自動詞の結果の含意（限界性）を明確に印象づける必要がある。

下記の例文(52)は誤用例とは言えないが、「自分で作ったカレー」からは「お手製のカレー」という形容詞的意味が出てくるが、「外で食べたカレー」では「過去の出来事または経験」となり、「レストラン（外食）のカレー」という形容詞的な意味は出てこない。

(52)　自分で作ったカレーは外で食べたカレーよりずっとおいしいです。

このように、形容詞的用法が可能なのは、他動詞であっても「作る／作った」のように動詞の語彙的意味に状態変化を表す意味を持つ動詞、すなわち結果の含意、あるいは限界性を持つ動詞である。従って、動詞が結果相（限界性）を持つかどうかで分類して紹介する必要がある。

なお、先の誤用例(50)「充実する」のように、品詞を含めた類型を混同している誤用例が８例と多いが[34]、基本的には述語の意味的特徴による類型に対する意識を喚起することによって誤用を減らすことが出来るのではないだろうか。

４－４　動詞の使用の回避（Ｖ型）

＜誤用例＞

(53)　マンガが氾濫の現象が続けば（略）【→氾濫する】

(54) （年配者と若者の）双方がよく補い、協調しあってこそ、発展の社会ができるというものだ。【→発展した】

誤用例(53)(54)は、漢語動詞（名詞＋スル）の名詞部分のみを使用たもので、動詞としての使用を回避しているものである。いずれもアスペクト的意味を明確に選択して、日本語の動詞としての使用を促す必要がある。

5．まとめ

以上、本大学留学生別科の学生の作文からテンス・アスペクトに関する誤用を連体修飾節を中心に検討した。その結果、次のような結論に至った。

1）Ⅰ型の誤用（タ形にするべきところをル形にする）は、連体修飾節では動作動詞において、文末では状態的述語において出現した。

2）Ⅲ型の誤用（テイル形にするべきところをル形にする）は、連体修飾節では動作動詞において見られ、文末では進行相ではなく結果状態相を作る瞬間動詞と恒常的な動作を表す動詞にに現れた。

3）タ形の形容詞的用法の誤用（Ⅰ型やⅤ型）や動詞使用の回避（Ⅴ型）は品詞の選択や動詞の類型の混同として現れた。

これらの誤用の要因として、日本語と中国語のテンス・アスペクト体系の相違があるが、アスペクトの文法形式を選択する前提として、述語のアスペクト的意味を明確な形で類型的に把握できる必要がある。本研究で出現した誤用には、母語の文法形式を日本語に援用したものも見られたが、誤用が出現しなかったタイプでは文法形式と述語の意味的類型が対応関係にあったものが多い。言い換えれば、正用においては学習者は自分なりに述語を意味的に類型化し文法形式を選択していることになる。従って、誤用が多く見られた類型の混同や類型を意識化していない述語については、指導において注意を払い、意識化できるような支援が必要である。支援の方法として、日・中動詞の意味的類型を共通の基準で分類し、対応するもの、ズレがあるものを明確化することを提案したい。なお、ここでは、筆者の試案として、意味素性により対照させた<表６>を添付しておく。

＜表６＞　日中動詞の意味素性による対照及びアスペクトの対照

「Ｖ－テイル」	日本語動詞	中国語動詞	中国語アスペクト
＜進　行　中＞	〔＋過程〕［－限界］ 待つ、歩く 笑う、遊ぶ	〔＋過程〕［－限界］ 等，走 笑，玩	在 ≪進行する前景≫
			着 ≪進行する背景≫
	聞く、見る	〔＋過程〕［＋限界］ 听，看	了 ≪継　　続≫ ≪実現・気づき≫
＜結果の状態＞	［－過程］〔＋限界〕 立つ、握る、 生える、咲く	［－過程］［－限界］ 〔＋状態〕 站，握 长，盛开	着 ＜状態の持続＞
	並ぶ、植わる	［＋過程］〔＋限界〕 〔＋状態〕 摆，种 穿，戴（眼镜）	
	［＋過程］〔＋限界〕 着る、(眼鏡を) かける		
	［－過程］〔＋限界〕 死ぬ、抜ける	［－過程］〔＋限界〕 死，掉	了 ＜結果の状態＞

＜注＞それぞれの動詞が持つ複数の素性のうち、太字で示した動詞の意味素性がそれぞれのアスペクト形式と結合して日本語「Ｖ－テイル」に対応する中国語のアスペクトを表す。詳しくは菅谷（1996）を参照のこと。

＜付記＞

本稿は平成９年度日本語教育学会秋季大会で口頭発表したものを加筆修正したものです。

＜注＞

(1)　黒野敦子（1995）初級日本語学習者における、＜テイル＞の習得について」『日本語教育87号』

(2)　許 夏 珮（1997）「中・上級台湾人日本語学習者による＜テイル＞の習得に関

する横断的研究」『日本語教育95号』

(3) 寺村秀夫（1984）pp194-216、砂川有里子（1986）pp76-97

(4) 木村英樹（1982）pp26-33によると、「已然」とは、時間の流れの中にあって実現する運動・変化としての動作・作用のうちで、話者の定位した時間的基準点において既に実現を見ている動作・作用が属する時間の領域を意味する＜実現中・既実現＞。また、「未然」とは、基準時において未だ実現を見ていない動作・作用が属する時間の領域を意味する＜未実現＞。

(5) 「了」や「着」などのアスペクト形式を伴わない動詞

(6) 揚 凱 栄（1997）では、連体修飾節の已然・非已然は構文、意味関係、主節のアスペクト、動詞の性質によって読みが決まるとしている。

(7) アスペクトの観点からの調査のため、名詞が修飾語となったもの［NのN］は対象からはずす。トキ節としたものは、「～前（に）」「～後（に／で）」「～時（に）」等の時を表す従属節。

(8) 『朝日新聞』（1997年９月12日～９月18日）の「声」欄の40通の投書を利用した。投書は、一通あたり400～700字で、字数は留学生の作文とほぼ同じであること、また内容的にも論説や一般の記事と違って、個人の考え方、感じ方が素直に表現されているので、文体や構成が留学生の作文に近いと考えたため、比較に利用した。

(9) ＜表４＞の「誤用の内訳」の中にある（　）内の数字は、他の種類の誤用にまたがっているものである。例えば、Ｖ型の形容詞的用法の誤用は４例だが、そのうち２例は「類型の違い」、他の２例は「回避」にも該当するものである。

(10) 誤用例中、（　）内は理解の助けとして筆者がつけ加えたもの。誤用箇所は＿＿＿で示し、その訂正は【→　　】で記した。

(11) ㉓は心理・感情動詞だが、ここでは「動作」か「状態」かの違いだけで見ることにした。

(12) 菅谷有子（1997）では、文末の誤用を中心に考察した。なお、＜表５＞も＜表４＞と同様に誤用の型により分布を示したものであるが、述語の形態に現れたもの（Ⅰ型、Ⅱ型、Ⅲ型、Ⅳ型）に限って、文末と連体修飾節の誤用の分布を示す。

(13) 荒川清秀（1982）「中国語の語彙」pp62-64。時を表す副詞（過去）は斜体によって示した。

(14) 本稿（２－２－２）参照のこと。

(15) 遠藤紹徳（1989）『中⇔日翻訳表現法』ｐ65、バベル・プレス

(16) 楊凱栄（1997）ｐ187

(17) 本稿（２－２－２）参照のこと。

(18) (a) 这是买衣服的钱，给你。［服を買うお金だ］(b)这是买报纸的钱，给你。［古

新聞を売ったお金だ］：楊凱栄（1997）は因果関係によって時の解釈が決定される例を示している。

(19) 黒野（1995）許（1997）では中国語話者の文法性判定テストを行った結果、進行相の正答率が高く、結果状態相の正答率が低いことを指摘している。また、許（1997）では同じ結果状態相を表わす瞬間動詞の中でも中国語のアスペクト助詞の「着」がつくグループとつかないグループとでは正答率に差があることを指摘している。

(20) 呂叔湘主編、牛島徳次漢訳（1993）『中国語用例辞典』東方書店、ｐ444

(21) 黒柳徹子（1984）『窓際のトットちゃん』講談社ｐ13より。訳文は陈喜儒，徐前译（1983）“窗边的阿彻”少年儿童出版社ｐ３より。

(22) 動詞をアスペクト的意味から類型化すると、継続動詞は［＋過程］の意味素性、瞬間動詞は［＋限界］の意味素性を持つと考える。くわしくは菅谷有子（1966）及び本稿の終わりに添付した＜表６＞「日本語動詞の意味素性による対照及びアスペクトの対照」を参照。

(23) 荒川清秀（1987）「“不”と“没”」では、形容詞にたてられる可能性を指摘している。

(24) このグループの動詞には「有、在、怕、喜　欢、爱、知道」等があり、無標で現在の状態を表す。

(25) 荒屋勧主編（1995）『中国語常用動詞例解辞典』ｐ679、日外アソシエーツ㈱

(26) 『窓際のトットちゃん』ｐ245、訳文ｐ143

(27) 「没」と同様のグループ（類型）には、「死、完、丢、掉、来、去、出现」などがある。

(28) 『窓際のトットちゃん』ｐ257、訳文ｐ150

(29) 同上ｐ259、訳文ｐ151

(30) 菅谷（1996）では日本語と中国語の動詞の意味的な類型は素性表記することによって対照させ、素性とアスペクト形式（アスペクト助詞）との結合の対応関係を試みている。

(31) 愛知大学中日大辞典編纂所（1988）『中日大辞典』大修館書店

(32) 例えば「壊す／壊れる」は他動詞と自動詞が対応し「壊れたドア」は形容詞用法と見なされる。

(33) 例えば「開ける／開く」［开］、「掛ける／掛かる」［挂］、「閉める／閉まる」［关］等。

(34) 誤用例「人気な人」【→人気がある】、「反対な態度」【→反対する】、「豊む経験や知識」【→豊かな】、「ままごとに夢中していたコンちゃんは」【→夢中になっていた】

＜参考文献＞

(1) 愛知大学中日大辞典編纂所（1988）『中日大辞典』大修館書店
(2) 『朝日新聞』（1997年９月12日～９月18日）の「声」欄
(3) 荒川清秀（1982）「中国語の語彙」『講座日本語12－外国語との対照Ⅲ－』明治書院
(4) 荒川清秀（1987）「“不”と“没”」『愛知大学外国語研究室報　11号』
(5) 荒屋勧主編（1995）『中国語常用動詞例解辞典』、日外アソシエーツ㈱
(6) 遠藤紹徳（1989）『中⇔日翻訳表現文法』バベル・プレス
(7) 木村英樹（1982）「テンス・アスペクト：中国語」『講座日本語学11－外国語との対照Ⅱ－』明治書院
(8) 許夏珮（1997）「中・上級台湾人日本語学習者による＜テイル＞の習得に関する横断的研究」『日本語教育95号』
(9) 黒野敦子（1995）「初級日本語学習者における、＜テイル＞の習得について」『日本語教育87号』
(10) 黒柳徹子（1984）『窓際のトットちゃん』講談社
(11) 菅谷有子（1996）「＜Ｖ－テイル＞に対応する中国語アスペクト」『第５回小出記念日本語教育研究会孫文集』
(12) ＿＿＿（1997）「中国人学習者の誤用－テンスとアスペクトを中心に－」『日本語教育論文集－小出詞子先生退職記念』凡人社
(13) 砂川有里子（1986）『日本語文法セルフ・マスターシリーズ２－する・した・している－』くろしお出版
(14) 寺村秀夫（1984）『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』くろしお出版
(15) 揚凱栄（1997）「『Ｖ的Ｎ』における已然と非已然」大河内康憲教授退官記念論文集刊行会編『大河内康憲教授退官記念中国語学論文集』東方書店
(16) 呂叔湘主編、牛島徳次漢訳（1993）『中国語用例辞典』東方書店
(17) 陈喜儒，徐前译（1983）“窗边的阿彻”少年儿童出版社